

45

千代田区景観まちづくり重要物件

昌平橋

指定日 2007（平成 19）年 3 月 28 日

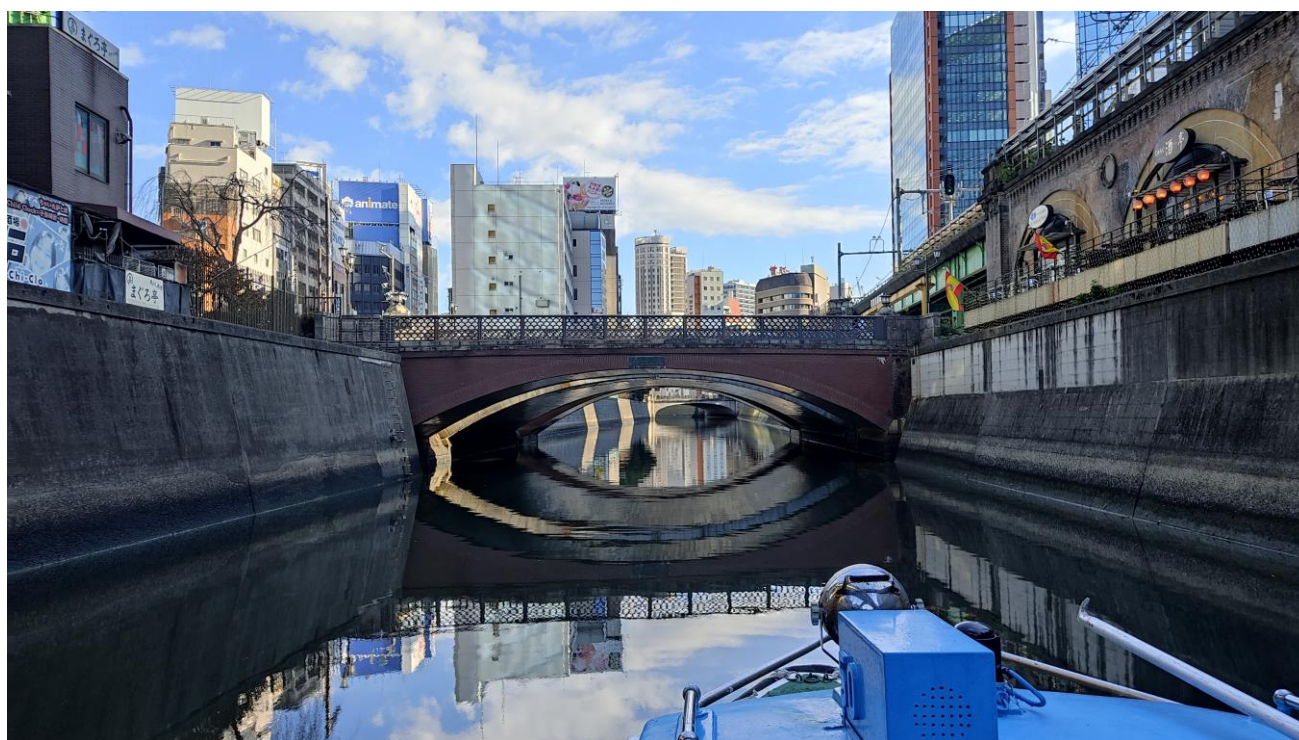
所在地 神田淡路町二丁目 9 番地, 神田須田町一丁目 25 番地先～外神田一丁目 1 番, 二丁目 1 番先（神田川）

設計者 -

竣工 1923（大正 12）年

文化財等
指定状況

-



▲昌平橋全景

歴史・文化的特徴

昌平橋の名称は、徳川綱吉が「湯島聖堂」を、孔子の生地「昌平郷」にちなんで「昌平饗(こう) (昌平坂学問所)」と名付け、近くの神田川に架かる橋（一口橋）を昌平橋に改名したことに由来しています。

昌平橋は、関東大震災の直前である 1923（大正 12）年に竣工した区内では古い橋です。1930（昭和 5）年に改修が行われています。

意匠・構造の特徴

簡素ですが力強いデザインのアーチ橋です。

モダニズムの影響を感じる親柱が特徴的で、手すりは波型の意匠が施されています。

歩道部の側面は煉瓦貼りがなされ、周辺景観との調和が図られています。また歩車分離道となっていることも特徴です。



▲昌平橋の親柱



▲歩車分離の様子（左：歩道、右：車道）

周辺景観との関係

歩行者の視点からは、印象的な親柱や手すり、舗装された路面が目に入ります。

橋上はビルに囲まれた神田川を見通す視点場となっています。また旧万世橋駅の煉瓦アーチをよく見ることが出来ます。

沿岸に道路が無いので、周辺から橋梁の全景を見ることは難しいです。

水面からは、アーチ橋の印象的な全景を見ることができます。

JR 総武線・中央線からは、煉瓦造の旧万世橋駅と昌平橋が調和した景観を見ることができます。